

平成 22 年度

掛之上遺跡 88・90・92・94

— 写真図版編 —

2011

静岡県袋井市教育委員会

袋井市役所都市建設部区画整理課

平成 22 年度

掛之上遺跡 88・90・92・94

－ 写真図版編 －

2011

袋 井 市 教 育 委 員 会
袋井市役所都市建設部区画整理課

例 言

1. 本書は、平成22年度に袋井市教育委員会と袋井市役所都市建設部区画整理課が実施した、^{おほけがうえ}掛之上遺跡の第88・90・92・94次発掘調査報告書写真図版編である。本書は民地と区画道路調査を併せて行った発掘調査について報告した。編集の都合で、調査区が隣接する第88・92次発掘調査区と、第90・94次発掘調査区と組み合わせて報告する。
2. 本発掘調査は袋井市教育委員会松井一明を発掘調査の担当者として実施した。
3. 本調査に係る事務については、袋井市役所都市建設部区画整理課公共施行係が行った。特に、公共施行係の藤原宣郎、村田理美、大澤勇人、奥野山誠、鈴木重光の各氏には、現場と事務に関して円滑な調整をして頂いた。ここに記して感謝いたします。
4. 本書の編集は松井が行った。
5. 本書に使用した現場写真のうち、空中全景写真については株式会社フジヤマが撮影したものを、その他遺構個別写真については松井が撮影したものを使用した。
6. 本調査で得た資料については、すべて袋井市教育委員会が保管している。

写真図版目次

- 巻頭カラー図版1 (1) 第88次-1発掘調査区空中写真全景
(2) 第88次-2発掘調査区空中写真全景
- 巻頭カラー図版2 (1) 第92次-1発掘調査区空中写真全景
(2) 第92次-2発掘調査区空中写真全景
- 巻頭カラー図版3 (1) 第92次-2発掘調査区空中写真全景
(2) 第90次発掘調査区空中写真全景
- 巻頭カラー図版4 (1) 第90次発掘調査区西半部空中写真全景
(2) 第94次発掘調査区空中写真全景
- 図版1 (1) 第88次-1発掘調査区空中写真全景 (2) 第88次-1発掘調査区空中写真全景
- 図版2 (1) 第88次-1発掘調査区全景 (2) SZ3
- 図版3 (1) SZ3東溝土層 (2) SZ3南溝土層
- 図版4 (1) SD23 (2) 北壁土層
- 図版5 (1) 第88次-2発掘調査区空中写真全景 (2) 第82次-2発掘調査区空中写真全景
- 図版6 (1) 第82次-2発掘調査区全景 (2) SD21・22
- 図版7 (1) SD21土層 (2) SD22土層
- 図版8 (1) SK42 (2) 重機による表土掘削作業
- 図版9 (1) 人力による作業風景 (2) ラジコンヘリによる写真撮影・測量作業風景
- 図版10 (1) 第92次-1発掘調査区空中写真全景 (2) 第92次-1発掘調査区空中写真全景
- 図版11 (1) 第92次-1発掘調査区空中写真全景 (2) 第92次-1発掘調査区全景
- 図版12 (1) SB29 (2) SB29かまど・土器出土状況
- 図版13 (1) SB29土器出土状況 (2) SB29貯蔵穴
- 図版14 (1) SH11 (2) SH11
- 図版15 (1) SH12・SD17 (2) SH12
- 図版16 (1) SZ2・3空中写真 (2) SZ2
- 図版17 (1) SZ3 (2) SZ5
- 図版18 (1) SZ5東溝土層 (2) SZ5・10空中写真
- 図版19 (1) SZ5・10空中写真 (2) SZ10東溝土層
- 図版20 (1) SZ11空中写真 (2) SZ11空中写真
- 図版21 (1) SZ11西溝土層 (2) SZ11東溝土層
- 図版22 (1) SD17 (2) SK43
- 図版23 (1) SK44 (2) SK45
- 図版24 (1) 南壁土層 (2) 重機による表土掘削作業
- 図版25 (1) 人力による作業風景 (2) ラジコンヘリによる写真撮影・測量作業風景
- 図版26 (1) 第92次-2南発掘調査区空中写真全景 (2) 第92次-2南発掘調査区空中写真全景
- 図版27 (1) 第92次-2南発掘調査区全景 (2) SD6・23・SK53
- 図版28 (1) 南壁土層 (2) 重機による表土掘削作業
- 図版29 (1) 第92次-2発掘調査区空中写真遠景 (2) 第92次-2発掘調査区空中写真全景
- 図版30 (1) 第92次-2発掘調査区空中写真全景 (2) 第92次-2発掘調査区空中写真全景
- 図版31 (1) 第92次-2発掘調査区全景 (2) SB30・SH13空中写真
- 図版32 (1) SB30・SH13空中写真 (2) SB30・SH13空中写真
- 図版33 (1) SB30 (2) SB30
- 図版34 (1) SH13 (2) SH13
- 図版35 (1) SH13P3 (2) SZ3
- 図版36 (1) SZ3西溝土層 (2) SZ10

- 図版37 (1) 調査区南半大満群空中写真 (2) S D17
- 図版38 (1) S D17・27 (2) S D10・21
- 図版39 (1) S D21土層 (2) S D22
- 図版40 (1) S D26 (2) S D26土層
- 図版41 (1) S K46・47 (2) S K46
- 図版42 (1) S K47 (2) S K49
- 図版43 (1) S K51・52 (2) S K51
- 図版44 (1) 第90次発掘調査区空中写真透景 (2) 第90次発掘調査区空中写真全景
- 図版45 (1) 第90次発掘調査区空中写真全景 (2) 第90次発掘調査区中心部空中写真全景
- 図版46 (1) S B11 (2) S B11炉跡
- 図版47 (1) S B21 (2) S B21炉跡1
- 図版48 (1) S B21炉跡2 (2) S B22
- 図版49 (1) S B22炉跡 (2) S B23
- 図版50 (1) S B23炉跡1 (2) S B23炉跡2
- 図版51 (1) S B23炉跡3 (2) S B24
- 図版52 (1) S B24 (2) S B24炉跡1
- 図版53 (1) S B24炉跡2 (2) S B25・27・28
- 図版54 (1) S B25 (2) S B25
- 図版55 (1) S B25かまど (2) S B26
- 図版56 (1) S B26 (2) S B26b炉跡
- 図版57 (1) S B27 (2) S B28
- 図版58 (1) S B28かまど (2) S B29
- 図版59 (1) S B29土器出土状況 (2) S B30
- 図版60 (1) S B30炉跡 (2) S B31
- 図版61 (1) S D76 (2) S D76土器出土状況
- 図版62 (1) S D76土層 (2) S D74・75・76
- 図版63 (1) S K59・63 (2) S K63土器出土状況
- 図版64 (1) S K60・61 (2) S P207
- 図版65 (1) 土器棺1 (2) S X12
- 図版66 (1) S B23付近北壁土層 (2) 重機による表土掘削作業
- 図版67 (1) 作業員による遺構調査作業風景 (2) ラジコンヘリによる写真撮影・測量作業風景
- 図版68 (1) 第94次発掘調査区空中写真全景 (2) 第94次発掘調査区空中写真全景
- 図版69 (1) 第94次発掘調査区空中写真全景 (2) S B31
- 図版70 (1) S B32 (2) S B33・34
- 図版71 (1) S B30炉跡 (2) S H46空中写真
- 図版72 (1) S H46空中写真 (2) S H46 P1
- 図版73 (1) S Z9・10空中写真 (2) S Z9・10空中写真
- 図版74 (1) S Z9北西コーナー部分 (2) S Z10西溝土器出土状況
- 図版75 (1) S Z10西溝土器棺1出土状況 (2) S Z10西溝土器出土状況
- 図版76 (1) S Z10南溝礫出土状況 (2) S Z9西溝土層
- 図版77 (1) S Z9北溝・S Z10南溝土層 (2) S D74・75
- 図版78 (1) S K64 (2) S K64土器出土状況
- 図版79 (1) 西壁土層 (2) 重機による表土掘削作業
- 図版80 (1) 作業員による遺構調査作業風景 (2) ラジコンヘリによる写真撮影・測量作業風景

※表紙写真 第92次-2調査区空中写真 (奈良時代の正倉域の南辺を区画すると思われる溝が検出された。中央の溝が奈良時代、左側は中世、右側は近世の溝である。西より)

写 真 图 版



(1) 第88次-1 発掘調査区空中写真全景
(北半部の調査区である。弥生時代中期後葉の方形周溝墓、
古墳時代後期の掘立柱建物と思われる柱穴が検出された。南より)



(2) 第88次-2 発掘調査区空中写真全景
(南半部の調査区である。奈良時代の郡衙正倉域の区画溝
と思われる溝、中・近世の溝が集中している。北より)



(1) 第92次-1 発掘調査区空中写真全景

(北半部の調査区である。手前の道路は第40次発掘調査区、左側の家部分は第39次発掘調査区にあたる。何れの調査区からも弥生時代中期後葉の方形周溝墓と、古墳時代後期の竪穴住居が検出されている。北より)



(2) 第92次-2 発掘調査区空中写真全景

(奥側の家部分が第88次発掘調査区、左側の駐車場が1区である。何れの調査区からも、弥生時代中期後葉の方形周溝墓、古墳時代後期の竪穴住居が検出されたが、本調査区からは奈良時代の郡衙正倉城の南辺を区画する溝が検出された。西より)



(1) 第92次-2発掘調査区空中写真全景
(東西方向にのびた3本の溝の内、中央の溝が奈良時代の区画溝である。北側にのびる溝も、この区画溝に接続しており、都御正倉に関係した溝と思われる。上が北で、真上より)



(2) 第90次発掘調査区空中写真全景
(左側の家部分は第66次発掘調査区になる。弥生時代後期と古墳時代後期の竪穴住居、同時代の柱穴や土坑が多数検出され、居住域の中心であったことが判明した。中・近世の区画溝も検出されている。上が北で、真上より)



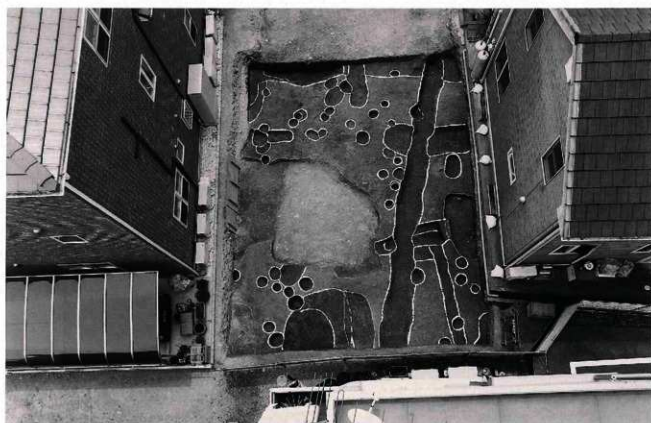
(1) 第90次発掘調査区西半部空中写真全景
(楕円形が弥生時代後期、方形が古墳時代後期の竪穴住居である。
数回の建替えが認められる住居もある。東より)



(2) 第94次発掘調査区空中写真全景
(第90次発掘調査区の西隣の調査区である。左側の道路は第74次発掘調査区である。隣接した調査区と同様に弥生時代後期と古墳時代後期の竪穴住居、同時代の柱穴が多数検出され、居住域の中心であったことが分かる。弥生時代中期後葉の方形周溝墓、中・近世の区画溝も検出されている。東より)



(1) 第88次-1 発掘調査区空中写真全景
(北半部の調査区で、弥生時代中期後葉の方形周溝墓、
古墳時代後期の柱穴、近世の区画溝が検出されている。西より)



(2) 第88次-1 発掘調査区空中写真全景
(溝は江戸時代末期の排水を兼ねた区画溝であろう。上が南で、真上より)



(1) 第88次-1発掘調査区全景
(一部攪乱が見られるが、遺構の数は多い。南より)



(2) SZ3
(弥生時代中期後葉の方形周溝墓で、南溝と東溝の一部が検出できた。
四隅に陸橋をもつ形態の方形周溝墓と思われる。南より)



(1) SZ3東溝土層
(盛土の流入は認められず、自然堆積の状況を示す。南より)



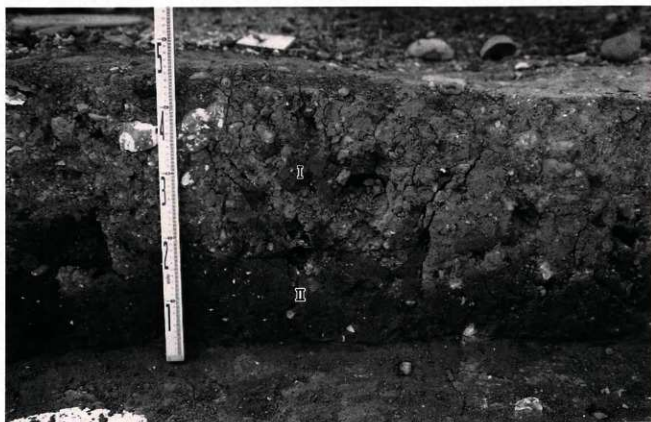
(2) SZ3南溝土層
(盛土の流入は認められず、自然堆積の状況を示す。東より)



(1) SD23

(江戸時代末期の排水を兼ねた区画溝であると思われる。

手前の溝も方形周溝墓に見えるが明確な組合せは判明していない。南より)

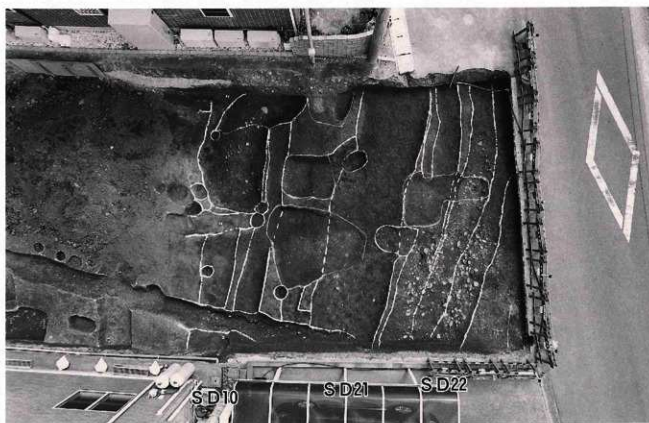


(2) 北壁土層

(厚さ15cmの包含層(Ⅱ層)が認められたが、調査区北端の狭い範囲しか存在していない。南より)



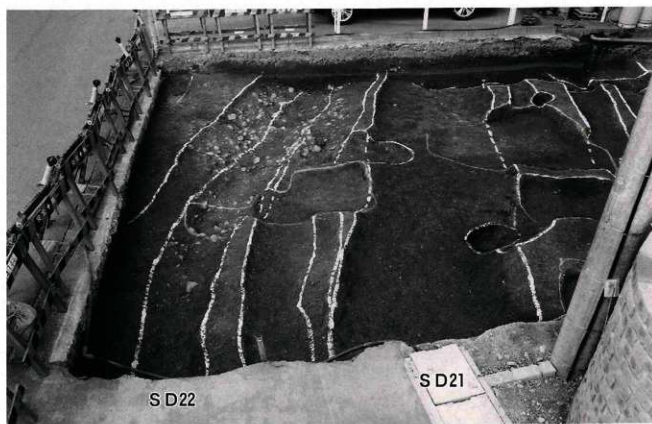
(1) 第88次-2発掘調査区空中写真全景
(南半分の調査区である。東西方向の多数の大溝が検出された。
中央のSD21が奈良時代の郡衙正倉域の南辺を区画する溝と思われる。西より)



(2) 第82次-2発掘調査区空中写真全景
(SD10は中世、SD22は江戸時代末期の排水を兼ねた区画溝である。上が東で、真上より)



(1) 第82次-2発掘調査区全景(北より)



(2) S D21・22

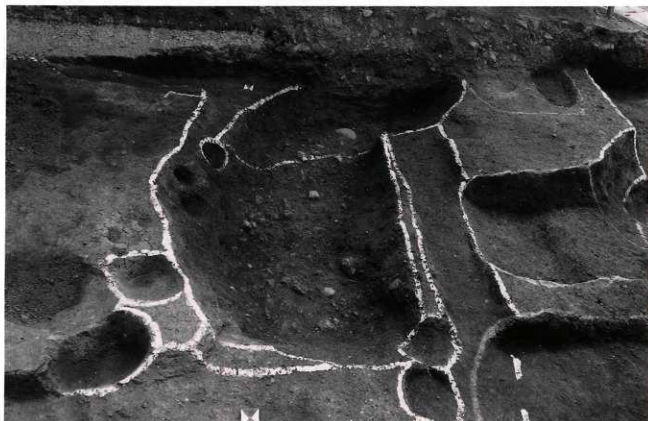
(S D21は奈良時代の郡衙正倉域の南辺を区画すると思われる溝、S D22は江戸時代末期の排水を兼ねた区画溝で2時期の流路が認められる。東より)



(1) S D21土層
(とくに一度に埋められた様子はなく、自然堆積を示す。東より)



(2) S D22土層
(水が流れた様子はないが、地形から見て排水用の溝と思われる。東より)



(1) SK42
(弥生時代後期の大型土坑である。遺物の出土量は少ない。西より)



(2) 重機による表土掘削作業
(包含層がほとんど存在していないため、遺構確認面まで表土を除去した。)



(1) 人力による作業風景（2区のSD21の掘削作業をしている。）



(2) ラジコンヘリによる写真撮影・測量作業風景



(1) 第92次-1 発掘調査区空中写真全景
(上側の道路部分が第40次発掘調査区、右側の家部分が第39次発掘調査区となる。南より)



(2) 第92次-1 発掘調査区空中写真全景
(弥生中・後期、古墳時代後期の道堀が多数検出されていることから、集落の中心域であったと思われる。西より)



(1) 第92次-1発掘調査区空中写真全景
(弥生時代中期後葉の方形周溝墓、古墳時代後期の竪穴住居、
奈良時代の大溝が検出されている。上が北で、真上より)



(2) 第92次-1発掘調査区全景（北西より）



(1) S B29

(古墳時代後期の竪穴住居である。北壁にかまど、南壁出入口付近に貯蔵穴が確認された。
S Z 3と重複している。北より)



(2) S B29かまど・土器出土状況

(かまどの保存状況はいいため、壊されていないと思われる。内部より土製支脚が出土している。
かまどの西側で出土した土器で、4・5は須恵器と土師器の坏、6は長甕の破片である。南より)



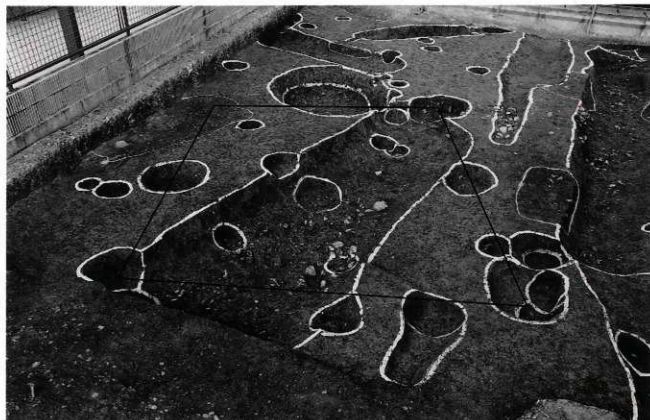
(1) S B29土器出土状況

(かまどの東側で出土した土器である。1・2は土師器の坏、3は土師器の壺の破片である。南より)



(2) S B29貯蔵穴

(南壁中央の出入口付近で検出された。北西より)



(1) SH11

(古墳時代後期の間口2間×2間の土間造りの掘立柱建物と思われる。南より)



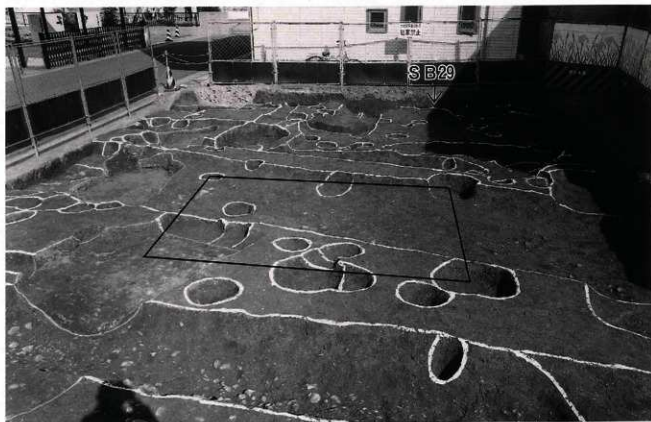
(2) SH11

(主軸方向はSB29・SH12とは合わない。東より)



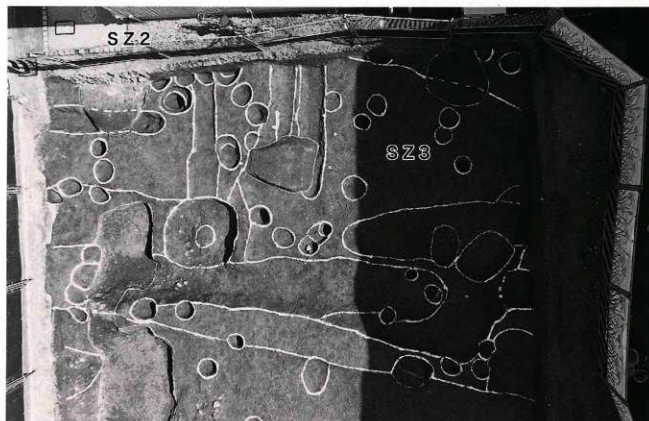
(1) SH12・SD17

(SH12は古墳時代後期の間口2間×2間の土間造りの掘立柱建物と思われる。
SD17は奈良時代の郡衙正倉に関連した溝と思われる。南より)



(2) SH12

(SB29と隣接して建てられている。西より)



(1) SZ2・3空中写真
(列状に並んでいるが、溝は共有しない。上が東で、真上より)

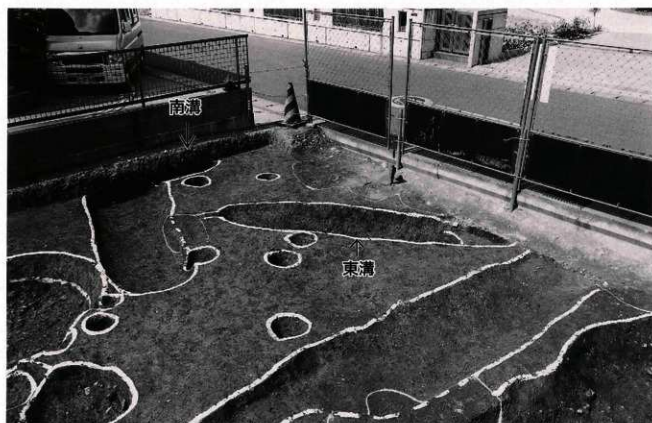


(2) SZ2
(四隅に陸橋を設ける弥生時代中期後葉の方形周溝墓である。
大半は第39次発掘調査区で検出されている。西より)



(1) SZ3

(四隅に陸橋を設ける弥生時代中期後葉の方形周溝墓である。
大半は第39次・第88次-1発掘調査区で検出されている。西より)

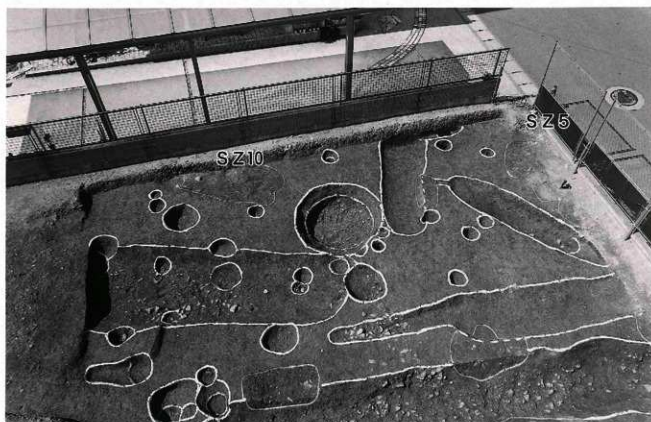


(2) SZ5

(東溝のみが検出されたが、四隅に陸橋を設ける弥生時代中期後葉の方形周溝墓と思われる。
大半は第40次発掘調査区で検出されている。主軸方向はSZ10・11とは合わない。東南より)



(1) SZ5東溝土層
(盛土の流入は認められず、自然堆積を示している。南西より)



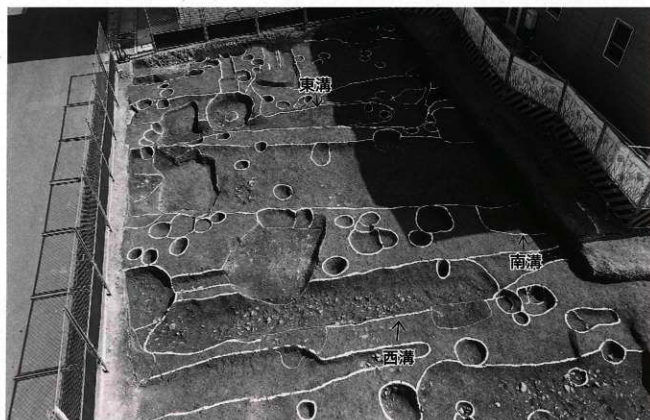
(2) SZ5・10空中写真
(SD10は北・東溝のみが検出されたが、四隅に陸橋を設ける弥生時代
中期後葉の方形周溝墓になると思われる。大半は調査区外となる。東より)



(1) S Z 5・10空中写真（上が西で、真上より）

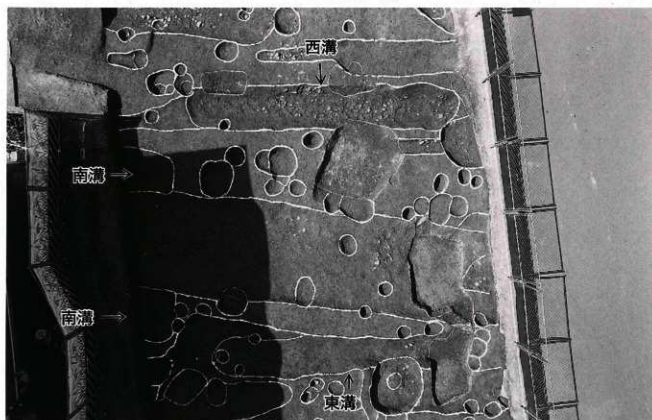


(2) S Z10東溝土層
（盛土の流入は認められず、自然堆積を示している。北より）



(1) S Z11空中写真

(南・東・西溝が検出され、四隅に陸橋を設ける弥生時代中期後葉の方形周溝墓である。北溝は第40次発掘調査区で検出されている。西より)



(2) S Z11空中写真

(主軸方向はS Z 2・3・10と合う。上が西で、真上より)



(1) SZ11西溝土層
(盛土の流入は認められず、自然堆積を示している。南より)



(2) SZ11東溝土層
(盛土の流入は認められず、自然堆積を示している。方台部側の立ち上がりのほうが急である。北より)



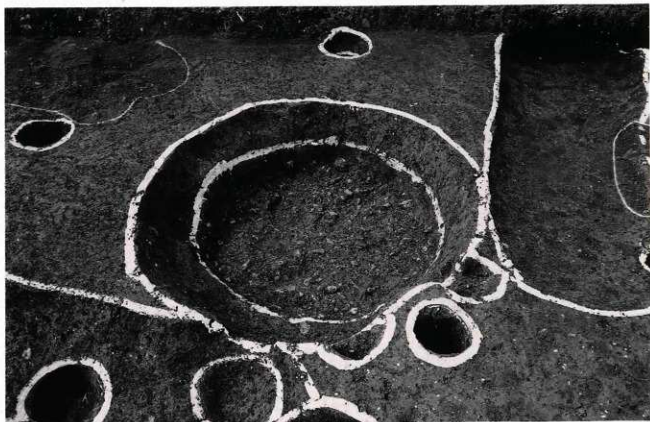
(1) SD17

(奈良時代の郡衙正倉に関係した溝と思われる。幅2.5mを測り、底も平らで、郡衙正倉域を区画する溝と規模、形状は類似している。南より)



(2) SK43

(江戸時代末期の水溜用の円形土坑である。中央が突出するので、桶が埋められていたものと思われる。西より)



(1) SK44

(江戸時代末期の水溜用の円形土坑である。付近に同時代の屋敷地が存在していたと考えられる。東より)



(2) SK45

(弥生時代後期の土坑内に埋められた壺形土器である。北より)



(1) 南壁土層

(厚さ15cmの包含層(Ⅱ層)が見られた。調査区北・東端では包含層がほとんど確認できなかった。北より)



(2) 重機による表土掘削作業

(包含層が一部にしか存在していないため、遺構確認面まで表土を除去した。)



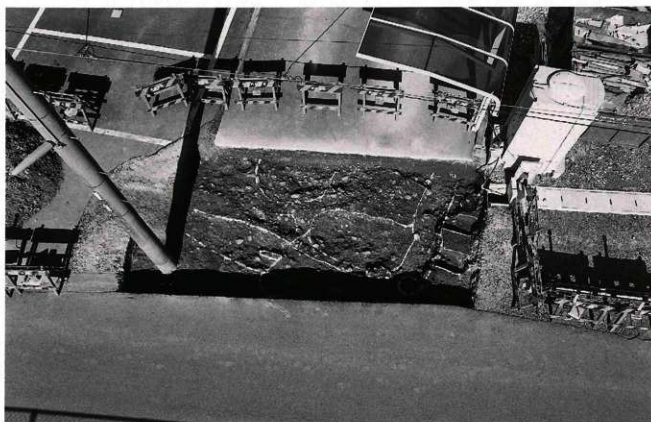
(1) 人力による作業風景
(S B 29付近で掘削作業をしている。)



(2) ラジコンヘリによる写真撮影・測量作業風景



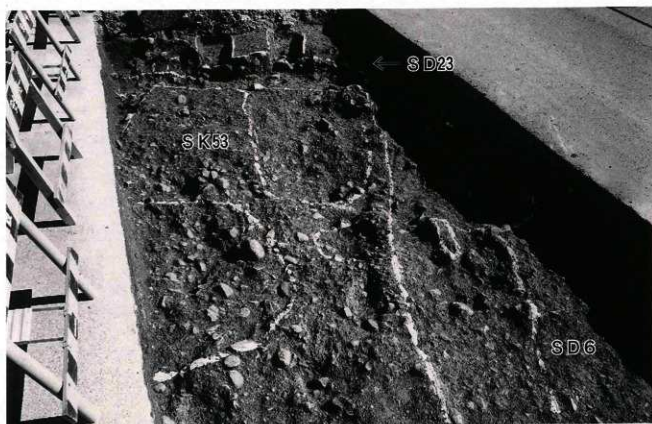
(1) 第92次-2南発掘調査区空中写真全景
(江戸時代末期の溝や土坑が検出されている。道路部分のごく狭い範囲の調査区である。西より)



(2) 第92次-2南発掘調査区空中写真全景 (南より)

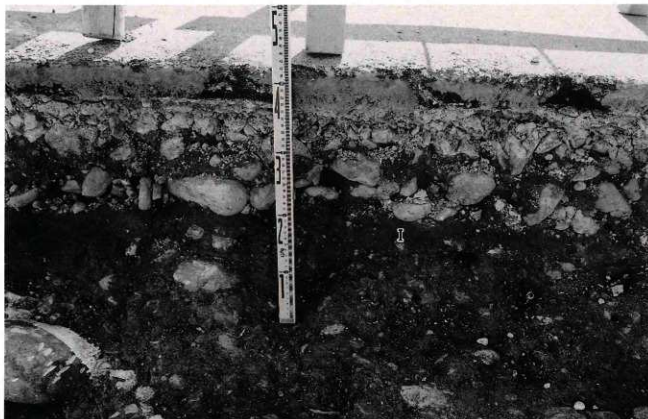


(1) 第92次-2南発掘調査区全景(西より)



(2) SD6・23・SK53

(何れも江戸時代末期～明治時代の溝や土坑である。西より)



(1) 南壁土層

(ほとんど道路の基盤工事のため本来の土層が失われ、表土(1層)が10cm残存していた程度である。北より)



(2) 重機による表土掘削作業

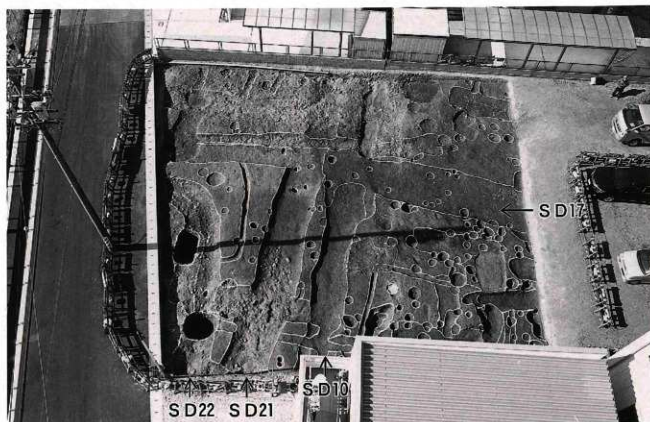
(包含層が存在していないため、遺構確認面まで表土を除去した。)



(1) 第92次-2発掘調査区空中写真遠景
 (遺跡の南端に近い場所の調査区である。JR東海道線の跨線橋より右側は大門遺跡となる。
 さらに右側奥の丘陵には地蔵ヶ谷古墳群が存在する。西より)



(2) 第92次-2発掘調査区空中写真全景
 (弥生時代中期後葉の方形周溝墓、古墳時代後期の竪穴住居、
 奈良～江戸時代末期の溝が検出された。北より)



(1) 第92次-2発掘調査区空中写真全景

(S D17・21は奈良時代の邸衝正倉に関連した区画溝、S D10は中世の溝、S D22は江戸時代末期の溝である。調査区南半は、中・近世では浅い谷地形で、みず道になっていたようである。東より)



(2) 第92次-2発掘調査区空中写真全景

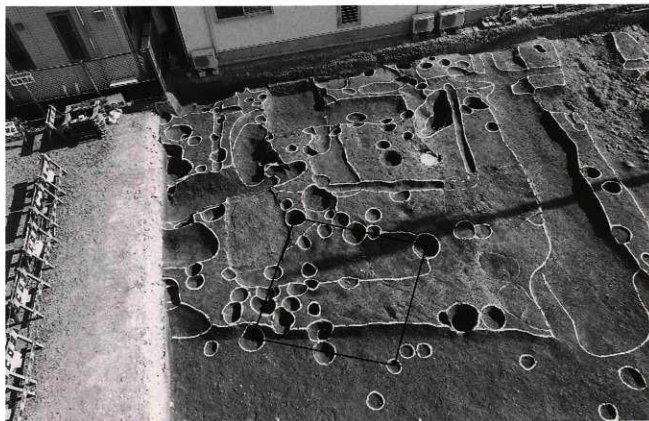
(調査区北半には弥生時代中期後葉の方形周溝墓、古墳時代後期の竪穴住居が検出され、遺構数も増加することから、集落の中心地に近いことが分かる。西より)



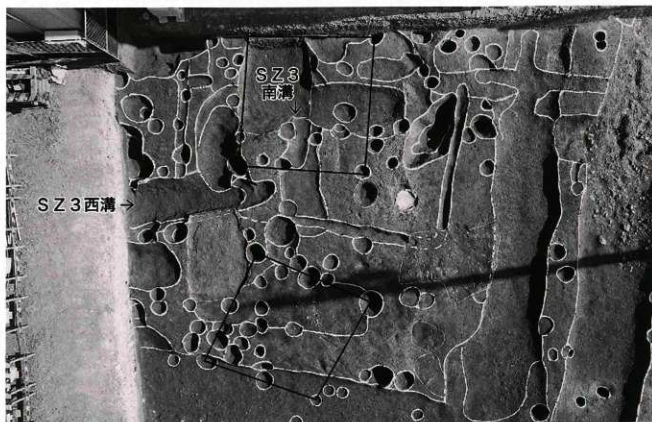
(1) 第92次-2発掘調査区全景
(手前の駐車場が1区、左側の家部分が第88次発掘調査区となる。北より)



(2) SB30・SH13空中写真
(SB30は古墳時代後期の方形プランの竪穴住居で、かまどは検出されなかった。
SH13と主軸は合わないので時期が違うのかもしれない。南より)



(1) S B30・SH13空中写真
(弥生時代中期後葉の方形周溝墓や後期の土坑と重複している。西より)

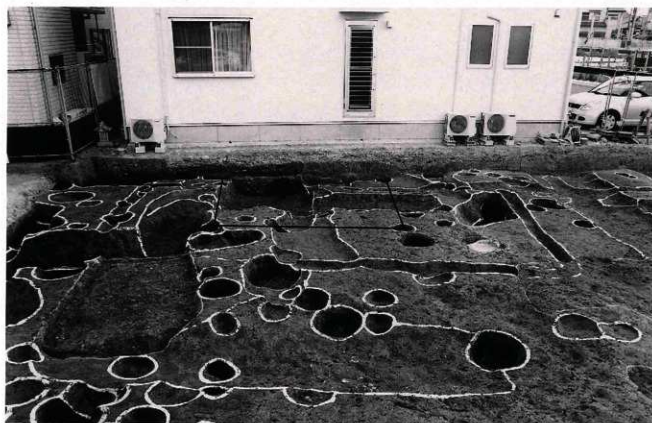


(2) S B30・SH13空中写真
(重複して検出されたSZ3は、弥生時代中期後葉の方形周溝墓である。上が東で、真上より)



(1) SB30

(古墳時代後期の竪穴住居で、掘方が浅いため壁溝しか検出できなかった。
かまどや貯蔵穴も遺構の重複が多いため確認できなかった。南より)



(2) SB30 (西より)



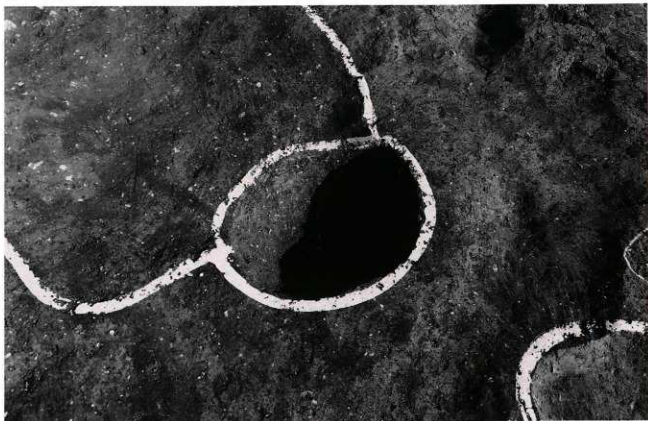
(1) SH13

(古墳時代後期の南北方向を主軸とする2間×2間の土間造りの掘立柱建物である。南より)



(2) SH13

(S B30に隣接して検出されたが、主軸も合わないし、位置も近すぎるので同時期にはならないかもしれない。西より)



(1) SH13P 3

(やや大きめの円形の柱穴である。古墳時代の掘立柱建物に多い。南西より)



(2) SZ 3

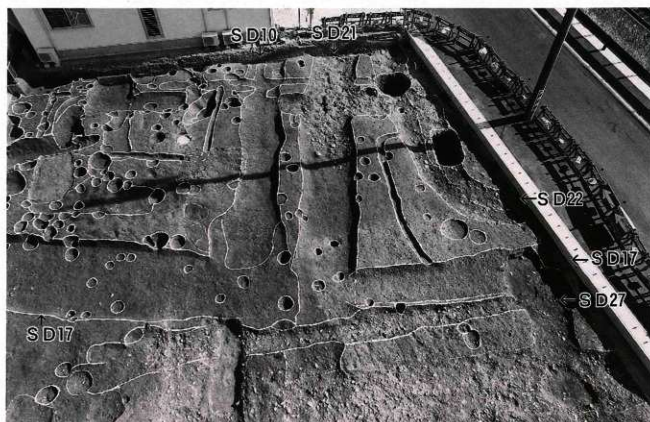
(四隅に陸橋を設ける弥生時代中期後葉の方形周溝墓である。本調査区では西・南溝の一部が検出され、第39・88次、92-1次発掘調査区にまたがって検出されている。西より)



(1) SZ3西溝上層
(盛土の流入は認められず、自然堆積を示している。南より)

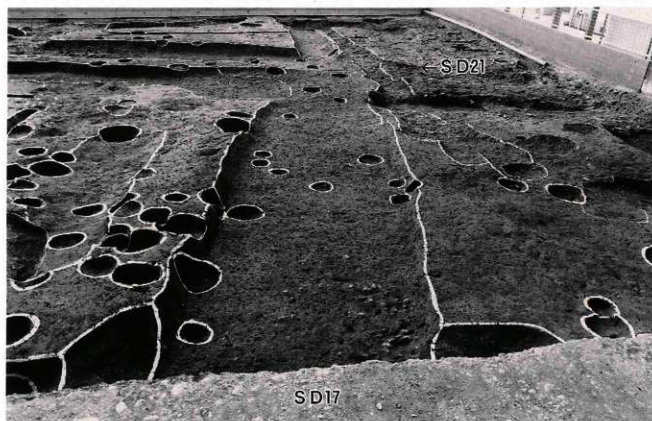


(2) SZ10
(四隅に陸橋を設ける弥生時代中期後葉の方形周溝墓である。本調査区では東溝の一部が検出され、第92-1次発掘調査区にまたがって検出されている。東より)



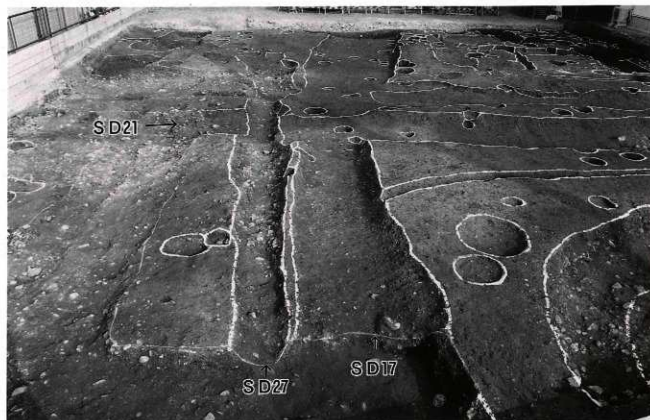
(1) 調査区南半大溝群空中写真

(SD17・21は奈良時代、SD10は中世、SD22は江戸時代末期、SD27は明治時代の溝である。西より)



(2) SD17

(奈良時代の溝である。郡衙正倉域の南辺を区画する溝と思われる
SD21に接続しているが、さらに南側にも幅を狭くしてのびている。北より)



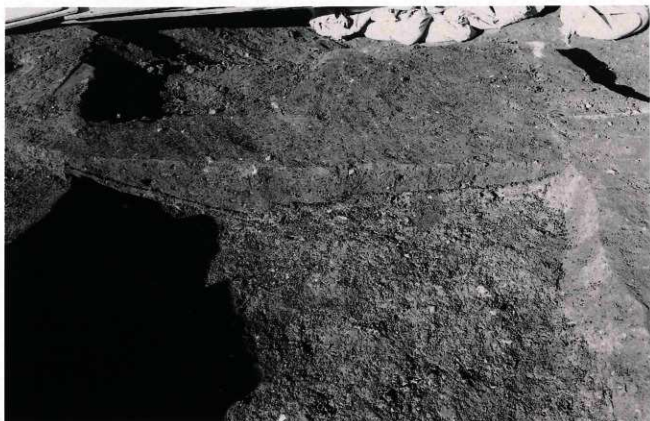
(1) SD17・27

(奈良時代の溝であるSD17は、D21よりも南側になると幅を狭くしてのびている。
SD27は明治時代の排水用の溝である。南より)



(2) SD10・21

(SD10は中世の溝。SD21は奈良時代の郡衛正倉城の南辺を区画すると思われる溝である。東より)



(1) S D21土層

(水の流れた痕跡は確認できない。自然堆積を示している。東より)



(2) S D22

(江戸時代末期の溝である。2時期の流路が確認される。西方向から南西方向に流路を変えている。西より)



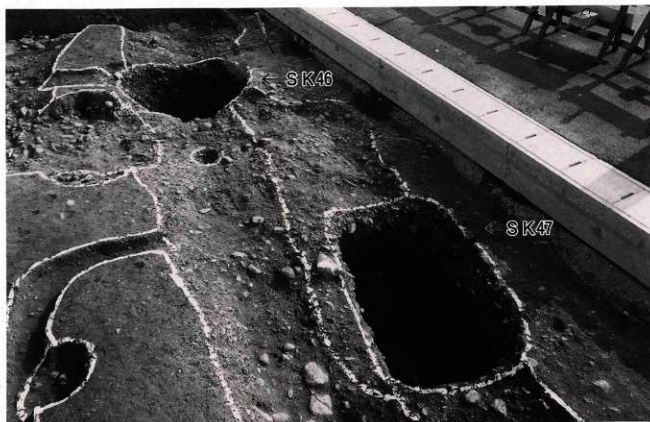
(1) S D26

(弥生時代後期の溝であるが、方形周溝墓の溝の可能性もある。南より)



(2) S D26土層

(人為的に埋められた状況ではなくて、自然堆積を示している。南より)



(1) SK46・47
(何れも江戸時代末期の土坑である。西より)



(2) SK46
(江戸時代末期の円形の大型土坑である。井戸か水溜用と思われるが、深かったので完掘していない。西より)



(1) SK47

(江戸時代末期の方形土坑である。深さは1m以上あるので、貯蔵穴と思われる。東より)



(2) SK49

(弥生時代後期の溝状の土坑である。浅く、遺物の出土量も少ない。南より)



(1) SK51・52

(何れも弥生時代後期の土坑である。SK52は深く不定型で、遺物の出土量も少ない。木の根の痕跡かもしれない。西より)



(2) SK51

(弥生時代後期の長方形の土坑である。浅く、遺物の出土量も少ない。南より)



(1) 第90次発掘調査区空中写真遠景

(遺跡の東端に近い場所の調査区である。手前の崖は遺跡東端の段丘岸線である。
右側には原野谷川が流れている。遠くに見える丘陵地は、磐田原台地である。西より)

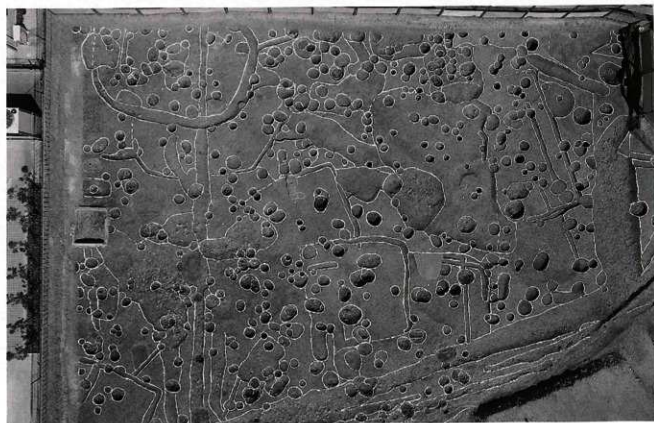


(2) 第90次発掘調査区空中写真全景

(弥生時代後期の竪穴住居と土坑、古墳時代後期の竪穴住居と掘立柱建物、江戸時代末期の溝が検出された。東より)



(1) 第90次発掘調査区空中写真全景
(弥生時代後期、古墳時代後期の遺構が多数確認されたので、
同時代の集落域の中心域であったことが分かる。南より)

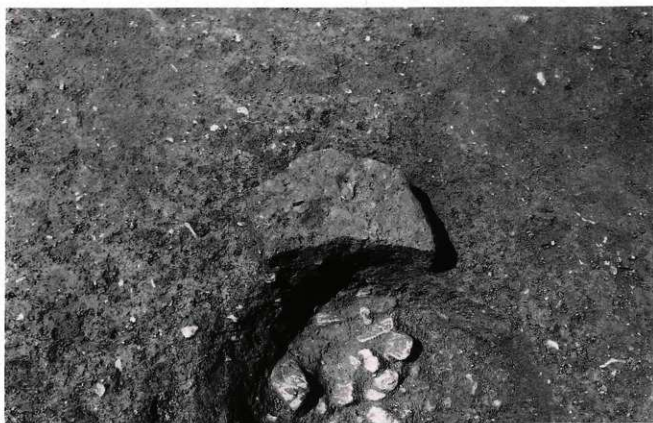


(2) 第90次発掘調査区中心部空中写真全景
(楕円形の竪穴住居は弥生時代後期、方形の竪穴住居は古墳時代後期のものである。
古墳時代後期の竪穴住居が一面に広がっていたことが分かる。上が北で、真上より)



(1) SB11

(古墳時代後期の竪穴住居で、掘方が浅いため壁溝しか検出できなかった。
南壁出入口付近で貯蔵穴らしい小穴が確認できた。北より)



(2) SB11炉跡

(南東隅で地床炉が確認できた。少し浮いているのは、貼床上の炉のためである。南より)



(1) SB21

(弥生時代後期の竪穴住居であるが、他の遺構との切り合いが多いため、壁溝の一部と炉跡しか検出できなかった。東より)



(2) SB21炉跡1

(良く焼けた小さな地床炉である。北より)



(1) S B21炉跡2
(良く焼けており、範囲も広い地床炉である。東より)



(2) S B22
(弥生時代後期の竪穴住居であるが、江戸時代末期の溝との重複があるため、壁溝のごく一部と炉跡しか検出できなかった。北より)



(1) SB22炉跡

(良く焼けた小さな地床炉で、かたまって3箇所が確認できた。北より)



(2) SB23

(弥生時代後期の楕円形の竪穴住居である。壁溝から2回の建替えが認められた。
炉跡は3箇所確認できた。南より)



(1) S B23炉跡1
(良く焼けた地床炉で範囲は広い。南より)



(2) S B23炉跡2
(良く焼けた地床炉である。焼けている範囲は2箇所確認できた。東より)



(1) SB23炉跡3

(あまり良く焼けていない地床炉である。焼けている範囲は2箇所確認できた。東より)



(2) SB24

(弥生時代後期の楕円形の竪穴住居である。炉跡は2箇所確認できた。南より)



(1) SB24

(SB23よりも新しい。北側の壁溝は検出できなかったが、SB23の埋土中の一部に貼床面と炉跡が確認できた。東より)



(2) SB24炉跡1

(良く焼けた地床炉である。SB23内の貼床面で検出されたため、浮いた状態で検出された。焼けている範囲は2箇所確認できた。南より)



(1) S B24が跡2

(良く焼けた地床炉である。S B23外で検出されたため、浮いた状態ではない。南より)



(2) S B25・27・28

(古墳時代後期の竪穴住居群である。東より)



(1) SB25

(北壁にかまどをもつ古墳時代後期の竪穴住居で、建替はない。
南壁の出入口付近に貯蔵穴が確認できた。南より)



(2) SB25

(SB27と重複しており、SB25のほうが新しい。東より)



(1) S B25かまど
(壊されているらしく、白色粘土と焼土の混じった範囲しか確認できなかった。南より)



(2) S B26
(弥生時代後期の隅丸長方形になる竪穴住居と思われる。炉跡は1箇所見つけた。南より)



(1) S B 26

(掘方が深いため壁溝は検出できなかったが、2棟の竪穴住居が重複していると思われる。西より)



(2) S B 26 b 炉跡

(地床炉で、あまり良く焼けていない。南より)



(1) SB27

(古墳時代後期の竪穴住居で、建替えはない。SB27のかまどが確認できないため、SB25のほうが新しいと思われる。南より)



(2) SB28

(古墳時代後期の竪穴住居で、壁溝から2回の建替えが確認された。北壁にかまどと貯蔵穴が検出された。SB27に壁溝が壊されているため、SB27のほうが新しいと思われる。南より)



(1) S B28かまど

(壊されているらしく、白色粘土と焼土の混じった範囲しか確認できなかった。
かまどの右側に円形の貯蔵穴が確認された。南より)



(2) S B29

(古墳時代後期の大型の竪穴住居で、壁溝から2回の建替えが確認された。
西半分はS B26と重複していたため、壁溝を検出することができなかった。
かまどは検出されなかったが、南壁の出入口付近に貯蔵穴2基が確認された。南より)



(1) S B29土器出土状況
(土師器の環である。床面直上より出土した。南より)



(2) S B30
(弥生時代後期の竪穴住居と思われる。掘方がないことと他の遺構との重複のため、炉跡と壁溝のごく一部検出しかできなかった。南より)



(1) S B30炉跡
(地床炉で、あまり良く焼けていない。西より)



(2) S B31
(方形となりそうなので、古墳時代後期の竪穴住居と思われる。掘方は深いが、一部壁溝が検出された。大半は調査区域外となる。南より)



(1) S D76

(弥生時代後期の溝であるが、方形周溝墓の溝にも類似する。南より)



(2) S D76土器出土状況

(口縁部を欠くが、完形品に近い壺形土器である。南より)



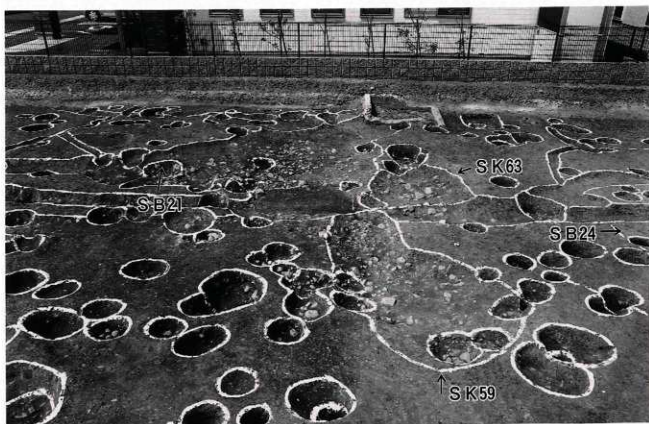
(1) S D76土層

(水が流れた痕跡はない。自然堆積を示す。南より)



(2) S D74・75・76

(S D76以外は、何れも江戸時代末期の東西方向に流れる溝である。時期が異なり掘られたものと考えられるため、基幹水路としての役目もあったと考えられる。東より)



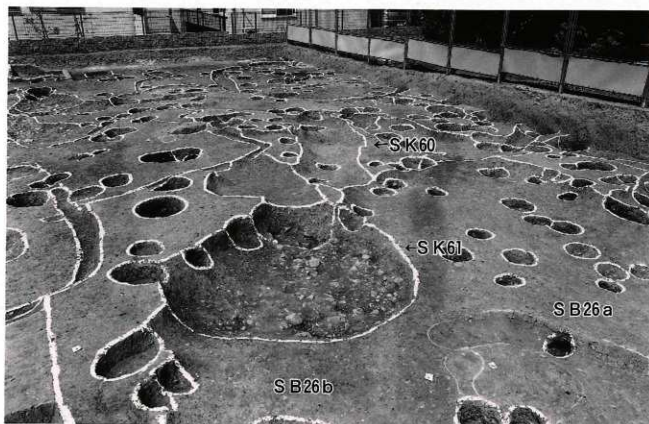
(1) SK59・63

(SB21・23・24付近で検出された弥生時代後期の不定形の土坑で、
いずれも土器片の出土量は少ない。東より)



(2) SK63土器出土状況

(いずれも壺形土器の破片である。南より)



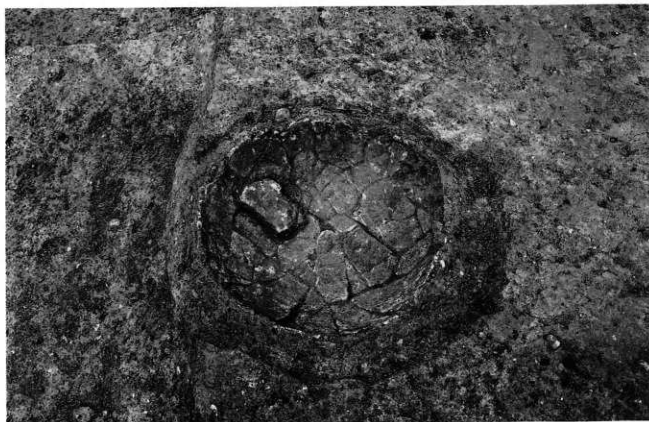
(1) S K60・61

(S B23・24・26付近で検出された弥生時代後期の不定形の土坑である。
いずれも土器片の出土量は少ない。東より)



(2) S P207

(古墳時代後期の小穴である。やや離れてはいるが、S B28の南壁出入口付近の
貯蔵穴になる可能性もある。1は土師器の坏である。南より)



(1) 土器棺 1

(S D76付近で検出された土器棺である。東隣の第85次発掘調査区でも、弥生時代中期後葉の土器棺2基が方形周溝墓付近で検出されている。この土器棺も上半分は失われているが、弥生時代中期後葉の土器棺で、斜位埋葬されていた。南より)



(2) S X12

(江戸時代末期の溝であるS D62と接続しているため、同時代の貯水用の大型土坑か池と思われる。東より)



(1) S B 23付近北壁土層
(厚さ40cmの厚い包含層 (Ⅱ層) が見られるが、北西端の一部のみで確認できたにすぎず、調査区全域には及ばない。南より)



(2) 重機による表土掘削作業
(包含層が全域に及ばないため、遺構確認面まで表土を除去した。)



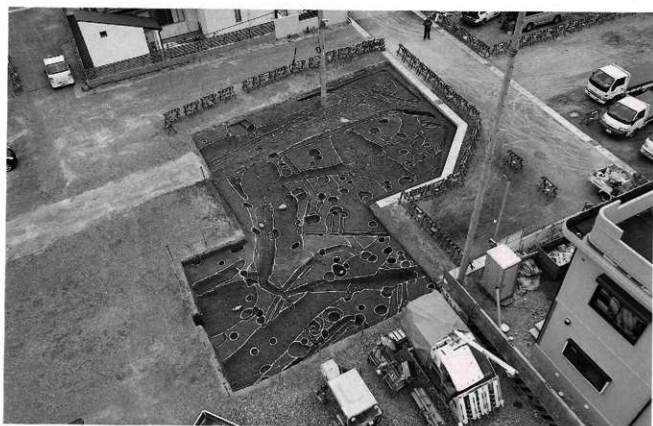
(1) 作業員による遺構調査作業風景
(S B27・28付近での調査を進めている。)



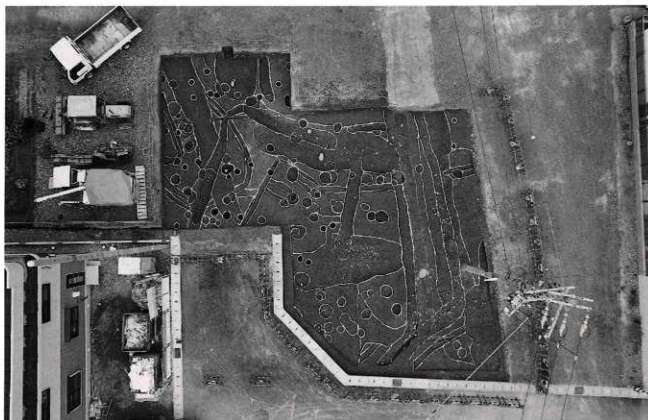
(2) ラジコンヘリによる写真撮影・測量作業風景



(1) 第94次発掘調査区空中写真全景
(奥側が第75次、左側が第85-1次、右側上が第90次発掘調査区になる。北より)



(2) 第94次発掘調査区空中写真全景
(弥生時代中期後葉の方形周溝墓、後期の竪穴住居、古墳時代後期の竪穴住居と掘立柱建物、江戸時代末期の溝が検出された。北西より)



(1) 第94次発掘調査区空中写真全景
 (遺構の数は多いため、弥生時代中・後期、古墳時代後期の
 集落域の中心地であったことが分かる。上が北で、真上より)



(2) SB31
 (古墳時代後期の堅穴住居と思われる。掘方が深いため、壁溝は検出できなかった。北壁付近よりかまどの
 痕跡と思われる焼土が確認された。西壁部分については第90次発掘調査区で検出されている。南より)



(1) S B32

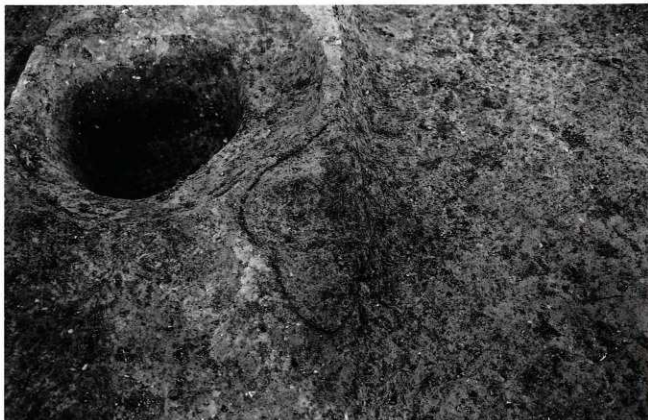
(方形となりそうなので、古墳時代後期の竪穴住居と思われる。他の遺構との重複があり、残存状況は良くないため、西壁と北壁の一部の壁溝しか検出できなかった。かまどは確認できなかった。南より)



(2) S B33・34

(S B33は弥生時代後期の楕円形の竪穴住居と思われる。炉跡が中央で確認された。

S B34は古墳時代後期の竪穴状居である。壁溝も確認できたが、大半は調査区外になる。南より)



(1) S B30炉跡

(地床炉で、良く焼けているが、半分はS D77により壊されている。南より)



(2) S H46空中写真

(土間造りの間口2間×2間になる、古墳時代後期の掘立柱建物である。西より)



(1) SH46空中写真
(古墳時代後期の竪穴住居であるS B31・32と重複するため、
これらの住居とは時期が異なる。上が北で、真上より)



(2) SH46P1
(やや大きめの掘方をもつ円形の柱穴であるが、柱痕跡は確認できなかった。東より)



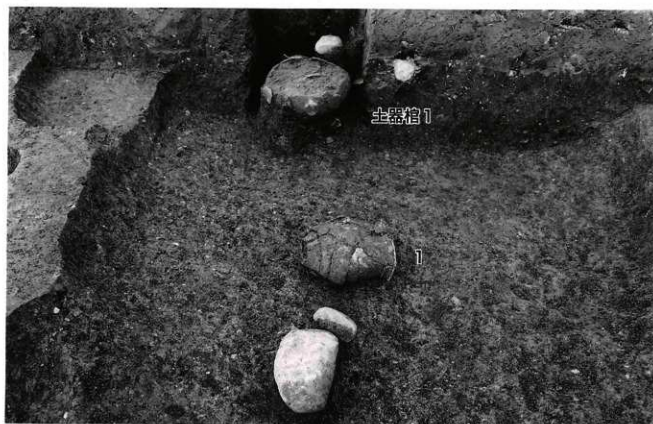
(1) SZ 9・10空中写真
(何れも四隅に陸橋を設ける弥生時代中期後葉の方形周溝墓である。北西より)



(2) SZ 9・10空中写真
(SZ 9の南溝は第90次発掘調査区で検出されている。SZ 10の大半は調査区域外となる。互いの溝の一部は、重複している。上が北で、真上より)



(1) SZ9北西コーナー部分
(浅い連結溝で北溝と西溝が結ばれている。南東より)



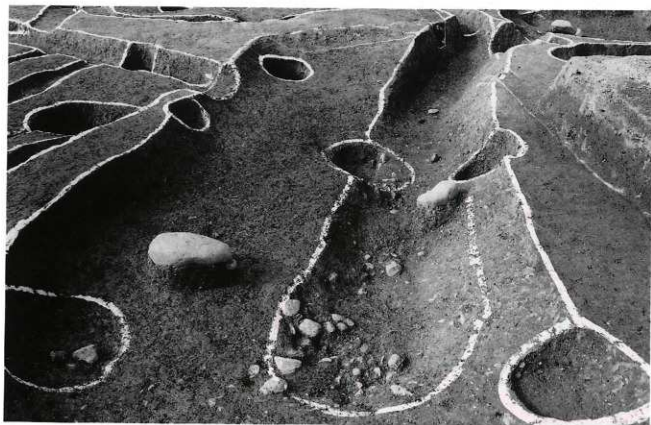
(2) SZ10西溝土器出土状況
(土器棺は底より浮いた状態で、1の甕は底近くから出土している。南より)



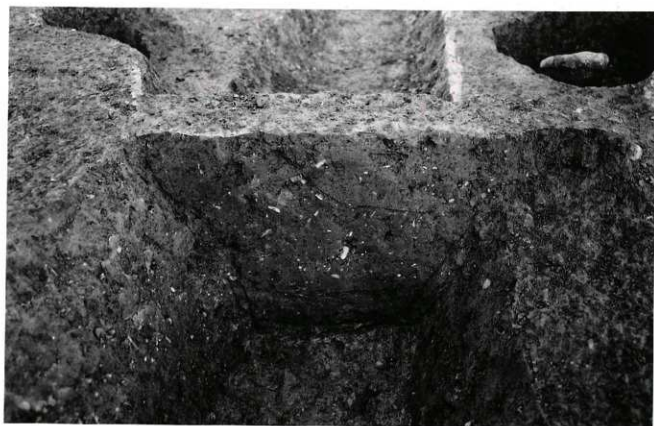
(1) S Z10西溝土器棺1出土状況
 (口縁部を打ち欠き別の壺の破片で蓋をしているが、胴部にも棺口が穿たれていた。壺棺直上から扁平な自然礫が出土している。西より)



(2) S Z10西溝土器出土状況
 (底部が打ち欠かれた甕が、横倒状態で出土した。
 すぐ脇に同レベルで人頭大の自然礫が出土している。西より)



(1) S Z 10南溝磔出土状況
(底よりやや浮いた状態で、人頭大の自然磔が出土した。S Z 9北溝と重複している。東より)



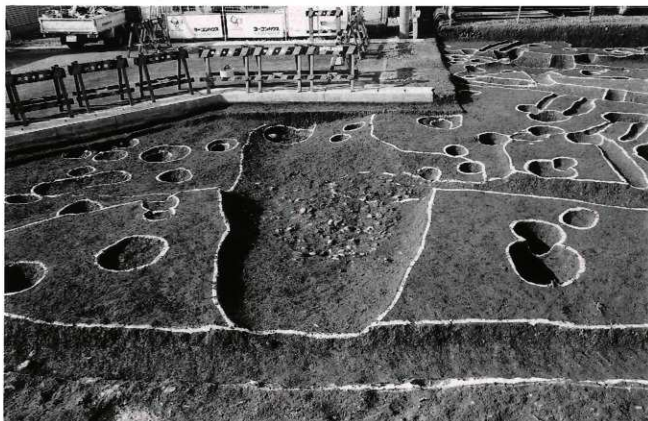
(2) S Z 9西溝土層
(盛土の流入は認められず、自然堆積を示している。南より)



(1) SZ9北溝・SZ10南溝土層
 (盛土の流入は認められず、自然堆積を示している。
 土層から見ると、SZ10南溝のほうが新しいことが分かる。東より)



(2) SD74・75
 (いずれも江戸時代末期～明治時代の溝である。現在の道路と重なる。南より)



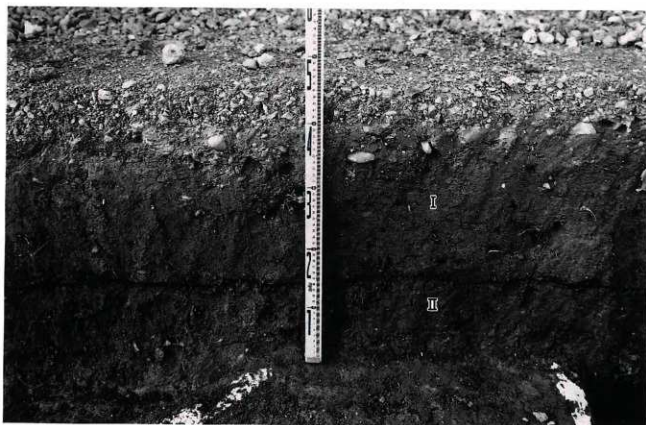
(1) SK64

(弥生時代後期の溝状の大型土坑である。土器の出土量は少ない。東より)



(2) SK64土器出土状況

(弥生時代後期の口縁部はないが完形率の高い壺形土器が、底近くから出土した。南より)



(1) 西壁土層

(厚さ15cmの包含層(Ⅱ層)が見られるが、北西端の一部のみで確認できたにすぎず、調査区全域には及ばない。東より)

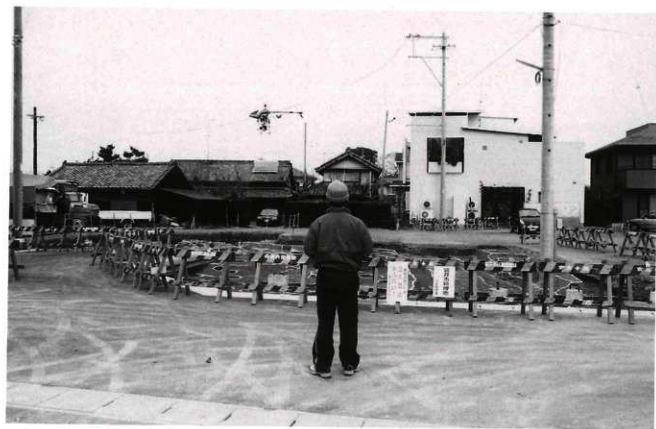


(2) 重機による表土掘削作業

(包含層がほとんど存在していないため、遺構確認面まで表土を除去した。)



(1) 作業員による遺構調査作業風景
(S Z10西溝での調査を進めている。)



(2) ラジコンヘリによる写真撮影・測量作業風景

報告書抄録

フリガナ	カケノウエイセキ シヤシンズハンヘン				
書名	掛之上遺跡88・90・92・94写真図版編				
副書名	袋井市駅前第二地区土地区画整理事業に伴う発掘調査報告書30				
編集著者名	松井一明				
編集機関名	袋井市教育委員会				
所在地	〒437-1192 静岡県袋井市浅名1028番地 電話0538-23-9269				
発行年月日	2011年3月28日				
フリガナ 所収遺跡名	カケノウエイセキ 掛之上遺跡				
フリガナ 所在地	シズベキケンフタロイシタカミカケノウエ 静岡県袋井市高尾掛之上				
コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	遺跡番号				
22216	151	34° 44' 24"	137° 55' 53"	20100512 ～ 20110327	1,526.3㎡ 袋井市駅前第二地区 土地区画整理事業に 伴う宅地造成・区画 道路建設
所収遺跡名	種別	時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
掛之上遺跡	集落跡	弥生時代 中・後期 古墳時代 後期 奈良時代 鎌倉～戦国 近世	竪穴住居 方形周溝墓 土坑 竪穴住居 掘立柱建物 土坑 区画溝 掘立柱建物 区画溝 土坑 区画溝	土器・石器 土器（土師器・須 恵器） 須恵器 山茶碗・陶磁器 陶磁器・かわらけ	弥生時代中～ 後期有力集落 古墳時代後期 有力集落 郡衙推定遺跡

袋井市駅前第二地区土地区画整理事業に伴う発掘調査報告書30

掛之上遺跡 88・90・92・94

— 写真図版編 —

発行年月日 2011年3月28日

編集・発行 袋井市教育委員会

袋井市役所都市建設部区画整理課

〒437-8666 静岡県袋井市新屋1-1-1

印刷 松本印刷株式会社

〒437-0013 静岡県袋井市新屋4丁目5-2